

「閉校を乗り越える」地域づくり ～地区住民の『心の拠り所』の再構築～

雲南市 飯石交流センター

1 飯石地区の概要

飯石地区は、雲南市中心部からは車で15分程度に位置し、12の自治会と、それを取りまとめる地域自主組織の支部4つから構成される。

人口は702名、高齢化率は44.4%だが、高齢化率80%超の自治会もある。

「長崎の鐘」「この子を残して」などの著作で知られ、長崎の被爆者救護に尽力した永井隆博士が幼少期を過ごした場所であり、また彼はこの地に平成28年3月まで存在した旧飯石小学校の卒業生でもある。そのご縁もあり、飯石小学校では特に平成に入ってから熱心に平和学習が行われた。



2 事業の趣旨

本事業では、地区計画の策定に向けた地域住民の取組と、その重点事項である、地元住民による小学校活用の推進を目指した。

飯石地区では飯石小学校閉校をきっかけとして、これからの地域の在り方を模索してきた。小学校活用策は3年間に渡り話し合いを重ね、平成30年度末に活用の具体案がまとまった。また平成29年度には住民アンケートを実施、それに基づいて「いいし地区計画策定委員会」が発足し、飯石地区の将来像を検討している。

本事業の具体的な活動内容は以下の通り。

3 具体的な取組内容

(1) 小学校活用推進に向けた取組

① ジオラマづくり

地域の子どもたちと一緒に、地区を再現したジオラマづくりに取り組んだ。今年度は土台となる部分の切り出し作業を行った。新聞、テレビにも取り上げてもらった。



② 小学校清掃

「飯石小学校クリーンプロジェクト」と銘打って、小学校グラウンドの草刈りと校舎、体育館の清掃を地元住民200名以上で行った。



③旧飯石小学校図書室開放

小学校の多目的室（図書室）を開放し、永井博士に関する展示や、平和学習の記録、小学校の昔の写真を閲覧できるようにした。また永井博士の書にならい、来場者に「平和を」と書いてもらった。



(2) 地区計画策定に向けた取組

①地域のいいとこマップ作成

地域の概要の再確認の為、航空写真を使い、地域の名所や思い出の場所を書き込んだマップを作った。



②先進地視察

雲南市内の先進地2か所の視察を行った。波多地区では閉校活用や地域内交通支援、自主防災への取組、宇山地区では関係人口づくりを中心に話を聞いた。



4 評価と成果

小学校清掃では参加者が年代、特性、体力に応じて各自でできることを見つけ、作業に取り組んだ。久々に顔を合わせる住民も多く、小学校を交流の場とするきっかけとなった。こうした活動を通じて、小学校がふたたび地域の拠点として住民に意識してもらえるようになっている。

ジオラマづくりでは、子どもたちが自分の住む地域を目に見える形で実感できる良い機会となった。

地区計画策定委員会は20代から50代の委員から構成されたメンバーだが、あまり世代ギャップを感じることなく、意見を自由に言い合えるチームとなった。

11月の視察で、両地区の「やってみる」「行動してみる」という姿勢に刺激を受けた委員が多く、その後の委員会ではさらに活発な意見交換がなされるなど、地域について主体的に考える人材が育ちつつある。

5 今後の課題と見通し

策定した地区計画は今後住民への報告会を行う予定としている。その後、地区計画を地域にどのように浸透させていくかは重要な課題である。

また、小学校活用は、形の整備ではなくその先にある住民の心の拠り所としての整備を目指し、住民に自然なかたちで地域づくりに貢献してもらえるような活動を行いたい。

さらに「担い手」としての若い世代にアピールする必要があるので、より発信力を高めていきたい。

(文責：事務局長 黒谷 文)